

8日 日曜

ヤコブ

5:1 金持ちたちよ、よく聞きなさい。迫り来る自分たちの不幸を思って、泣き叫びなさい。

5:2 あなたがたの富は腐り、あなたがたの衣は虫に食われ、

5:3 あなたがたの金銀はさびています。そのさびがあなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財を蓄えたのです。

5:4 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。刈り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。

5:5 あなたがたは地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、屠られる日のために自分の心を太らせました。

5:6 あなたがたは、正しい人を不義に定めて殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。

5:7 ですすから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は大地の貴重な実りを、初めの雨や後の雨が降るまで耐え忍んで待っています。

5:8 あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主が来られる時が近づいているからです。

5:9 兄弟たち。さばかれることがないように、互いに文句を言い合うのはやめなさい。見なさい。さばきを行う方が戸口のところに立っておられます。

5:10 兄弟たち。苦難と忍耐については、主の御名によって語った預言者たちを模範にしなさい。

5:11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いです



私たちは思います。あなたがたはヨブの忍耐のことを聞き、主によるその結末を知っています。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられます。

神から離れていても、富があることによって安心しきっている人に、警告を与えています。富を人生の優先順位にしていると、どうしても自己中心な生き方になってしまいます。

「地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせました。」と言われているのは、一部の金持ちのようですが、もしかしら現代の富める国々も当てはまるかもしれません。または6人に1人と言われる子どもの貧困がありながら何もしない日本の大人たちかもしれません。何ができるかこの際考えてみる必要がありそうです。

この世の自己中心主義的な価値観の中で、神様の真理と愛の価値観で生きるのは、大変なこともあります。しかし忍耐して主のみわざを待つなら、必ず主は信仰に答えてくださり、幸いへと導かれるのです。ヨブなどがその証しです。

そこで私たちは謙遜になる必要があります。何でも自分の力でやっている、だから自信を持って約束するということではなく、主の御心ならばそれができるという謙遜さです。安易な目論見によって先のことを考えるなら、その報いを「さばき」のように招くことになるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

